

園の輪

そののわ No.189

学校法人 甲子園学院



校祖72回忌 追悼式

CONTENTS

〈校祖72回忌 追悼式〉…………… 2～3	〈久米多香子特別顧問を偲んで〉…… 4～5
追悼の辞	
甲子園学院長 久米 知子	〈学校園だより〉…………… 6～11
記念講演	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
浄土宗 大本山 金戒光明寺 執事長	
橋本 周現	〈学院トピックス〉…………… 12
「ご縁とは一 偶然は必然 一」	学院生の活躍

校祖七十二回忌追悼式

令和七年三月三日、午前十時から甲子園学院高等学校体育館において、校祖第七十二回忌・前学院長十一回忌が厳肅に挙行されました。祭壇には、校祖先生と久米利男前学院長先生のご霊位とご尊影並びに合祀者三名の方のご霊位とご慰霊の前に十六基の供花、お供えが捧げられ、学院長が追悼の辞を述べました。その後、ご遺族・ご来賓・教職員並びに各学校の学院生代表、保護者・卒業生、一般の方々が献花し、追悼歌・学院歌を斉唱しました。



追悼の辞

厳しい寒さの中に春の気配が漂う今日、三月三日は校祖先生ご逝去の日から数えて七十一回目の祥月ご命日に当たります。学院はこの日を、校祖先生並びに久米利男前学院長先生のご遺徳を偲び、併せて学院関係物故者の御霊を祀る「追悼の日」と定め、学院にとつて最も重要な行事である追悼式を毎年厳肅に執り行っております。

さてこの度は前学院長先生と二人三脚で学院の発展に尽くしてこられた久米多香子特別顧問を合祀することになりました。併せて元短期大学教授・中高主事・中川泰一先生と元理事・大学事務局長・建本信雄氏のお二方も合祀いたします。

特別顧問はあの関東大震災の起きた大正十二年に横浜市で生を享け、その後日本女子大学家政学部に進学、折しも太平洋戦争真っ只中のまさに激動の時代に青春期を過ごし、日本の敗色濃い昭和十八年、あの神宮外苑での出陣学徒壮行会において代表として旗手という大役を任されるほどの才媛でありました。昭和二十五年に前学院

長先生と結婚後は二人で校祖先生を支える中、昭和二十九年、校祖先生の突然のご逝去という最大の試験が学院を襲いました。校祖先生の崇高な教育理念と高潔なお人柄に心酔し、この上なき尊敬の気持ちを抱いていた当時の特別顧問が受けた衝撃と無念さはいかばかりであったでしょうか。しかし累卵の危うきにあった学院は前学院

長先生と特別顧問の死に物狂いの努力により、見事に立ち直ることが出来たのです。それだけではありません。中高の今でいう指導部長に当たる訓育部長を務めた後は法人事務局長として経営全般に携わりながら、長年の夢であった短期大学の創設を成し遂げ、短大副学長としてもその手腕を如何なく発揮しました。また前学院長先生と二人で校祖先生の念願だった大学の創設も果たし、ここに兵庫県唯一の幼稚園から大学・大学院まで揃った総合学園が誕生したのです。この功績は前学院長先生のお力は勿論ですが、事務局長時代の内助の功があればこそ実現出来たことです。学院に

対する愛情は海のごとく深く、積極的な攻めの姿勢を崩さず、しかし一方では、常に前学院長先生を立て、夫唱婦随で学院の発展に身を粉にして尽くし、去る一月十日に百一年の人生の旅を終えました。私は新年挨拶会の席上「特別顧問がいつか学院長のところに行く時には良い報告ができ、褒めても

日本にも色々宗派があります。私はお念仏の宗派です。他にも禅宗、真言宗、天台宗などいろいろあります。でも共通したものが、生者必滅、会者定離、諸行無常ということになります。今日、皆様方にご縁を持つてお話ししたい目的といたしましては、「無財の七施」というのがあります。これは無財というのはお金が無くてでもできま

追悼式記念講演要旨

ご縁とは — 偶然は必然 —

浄土宗 大本山 金戒光明寺 執事長 橋本 周現

すよという施しです。

一つは眼施です。目の施しです。穏やかな目、優しい目で人に接することです。接するときに、そういう温かい目で見ている生活をしていきたいと思います。二つ目が和顔施と言います。いつも笑ってニコニコして、そしておだやかな顔をして接していきましようということ。三つ目に愛語施と言います。温かい言葉を使うことです。温かい言葉を使うことで、おだやかな温かい心をもって、心のこもった言葉で接しようということ。この二番目と三番目を合わせて、和顔愛語と言います。いつも和やかにおだやかな顔を持って、優しい言葉をかけていきましょう。愛のある言葉、慈悲のある言葉をかけていきましょうというのが和顔

愛語」という言葉になってきます。四つ目は身施と言います。この身と申しますのは困っている人、例えばあの重い荷物を持っているおばあさんを見た時、「おばあちゃん、大丈夫ですか？」って言って持つてあげるといことですね。それが自分自身ではなくて相手の心を持つて、困っているんだから助けてあげましようという心です。

五つ目が心施の施しという形になります。これは自分勝手な思いではなくて、他人のことを思って、「こんなことを言うたらあかん、こんなことをしたらあかん」と、相手がどう思うかということを、はじめに心の中で思つて施しをしていくことです。自分の思いだけでやっていくのではなくて、相手の立場に立つて心を持つて施しをしていくということ。六つ目が床座施（しようざせ）

です。これは電車やバスに乗っている時とか他のいろんなところで、困っている人に席を譲つてあげることです。そういう形で自分が我慢できることは、他の方に譲つてあげましようということ。最後の七つ目が房舎施（ぼうしやせ）です。軒先で雨で困つてい

ます。五つ目が心施の施しという形になります。これは自分勝手な思いではなくて、他人のことを思って、「こんなことを言うたらあかん、こんなことをしたらあかん」と、相手がどう思うかということを、はじめに心の中で思つて施しをしていくことです。自分の思いだけでやっていくのではなくて、相手の立場に立つて心を持つて施しをしていくということ。六つ目が床座施（しようざせ）

思い出のアルバム



大雪の日



日本女子大の学部委員長として
学校代表で校旗をもつ



神宮外苑 出陣学徒壮行会 昭和18年10月21日



屋上庭園で



左から局長、学院長、榎原学長



局長室で仕事中の局長



創立50周年 記念パーティー



高野山行きの中で



慰霊塔開眼法要 学院長・局長の手によって除幕が行われた日



美術資料館のテープカット



甲子園学院幼稚園舎竣工記念式



特別演習

久米多香子特別顧問 略年譜

大正12(1923)年	9月6日神奈川県横浜市に生まれる	昭和52(1977)年	甲子園短期大学副学長 併任
昭和16(1941)年	横浜第一高等学校卒業	昭和62(1987)年	校祖生誕100年記念式典挙行
昭和19(1944)年	日本女子大学家政学部一類卒業	昭和63(1988)年	学院物故者慰霊塔(高野山)建立
昭和25(1950)年	1月 久米利男(前学院長)と結婚	平成3(1991)年	学院創立50周年記念式典挙行
昭和26(1951)年	幼稚園、小学校を開園・開校	平成7(1995)年	阪神・淡路大震災被災
昭和36(1961)年	甲子園学院事務局長就任	平成9(1997)年	中・高等学校新校舎完成
昭和39(1964)年	甲子園短期大学開学	平成13(2001)年	美術資料館 久米アートミュージアム開館
昭和40(1965)年	欧米視察(世界教育視察団として40日間)	平成20(2008)年	特別顧問 就任
昭和42(1967)年	甲子園大学開学	平成23(2011)年	学院創立70周年
昭和50(1975)年	甲子園学院理事 就任	令和7(2025)年	1月10日逝去



久米多香子先生を偲んで 追悼メッセージ

私を教育界に導いて下さったのは、久米多香子先生でした。僅かな企業経験しかない私の採用面接時は「今までの経験のすべてを生かして、学生を導いてほしい」、初めて役職を拝命したときは「職位で仕事をしなさい」「判断を間違えないように」「仕事は素早く正確に」等々、折に触れてご指導いただいた言葉を思い出します。

日本女子大学で家政学を学ばれた先生は、衣、食、住、経済・経営の生活課題を実践的に学ぶ生活実習を大切にされ、学生の感想文を丁寧に読まれご指導いただきました。これは学生と教員ともに深い学びの機会となりました。平成十六年の短大四十周年記念事業のひとつ『生活実習ハウスの四十年』発行においても、先生のお力添えを深く感謝しております。

平成十一年には、家政科を家政専攻と生活福祉専攻に専攻分離し、介護福祉士養成がスタートしました。先生が「生活福祉」という名称の方が、将来、専攻の内容を幅広く深くできる」とおっしゃった言葉を忘れられません。新しいことの計画時には、将来のあるべき姿を予想して物事を進めること、今は私の行動指針となっています。

甲子園短期大学学長補佐

永藤 清子

訃報に接し、深い悲しみと言葉にならない寂しさが、より一層込み上げてきます。

思い出すのは六十年前、短大設立の折、初代学長の齋藤睿寿先生と一生懸命奮闘しておられた、キラキラ輝く若き局長先生のお姿です。一期生は十五名でしたが、局長先生の厳しくとも温かいご指導を受け、また多くの先生方に大切に育てていただきました。

開学したばかりで制服や学則等、いろいろなことで局長室に呼ばれお話をしたこと、その都度、皆で美味しくお紅茶をいただき、とてもアットホームで幸福な時間だったことを思い出します。

当時、他の学校にない日本で初めての「実習ハウス」ができ、皆で寝起きを共にして日常生活を楽しみながら学習するという画期的で楽しくすばらしい経験をすることもできました。

ある時、局長先生に「先生はいつも働いておられますが、お休みの日に温泉や旅行にはいらつしやらないんですか？」とお尋ねしたら、少し間があって「そうね。私は学院が命です。一円でも無駄にせず学院の為に使いたいのよ」とはつきりおっしゃいました。日頃、妻として母として嫁としてお仕事をし、こんな時代にこんなすば

らしい女性がいらっしゃるんだと感動し、心から尊敬したことを今でも強く印象に残っています。



甲子園短期大学同窓会

最後まで学院を愛し、人を大切に、院長先生と共に数々のご苦勞を乗り越えて今日まで築いてこられた局長先生、百一歳迄お嬢様方に大切に見守られて幸福な一生だったと思います。

コロナ禍の前に、「必ず会いに参りますからお元気でいらしてください」と涙を流しながら、局長先生とお話したのが最後になりました。長い間本当に有難うございました。

大好きな局長先生、どうぞ安らかにお休みください。そして知子学院長先生はじめ、学院のことをお守りください。

甲子園短期大学一期生

多田 千代子

私が学院に奉職したのは昭和五十六年でした。当時、私たちは局長先生とお呼びしていました。爾来四十四年、局長先生との思い出は数え切れぬほどございます。その一つ一つを挙げていくとつきりがありませぬので、局長先生から私が賜った最高の薫陶を一つだけ述べさせていただきます。

それは先生の素晴らしい歴史観です。先生は戦時中の学徒出陣式で旗手を務められた程の才媛でいらつしやいましたが、祖国のために命を捧げた英霊に対し常に尊崇の気持ちを抱かれ、先人の作り上げた歴史と伝統を非常に大切になさっておられました。

その精神は甲子園学院の追悼式にも、また高等学校の修学旅行では、靖国神社参拝、遊就館の見学などに脈々と反映されています。私が教頭の時に靖国参拝を計画しましたが、局長先生はもとより学院の絶大なご支援とご理解があればこそ、現在もお継続され生徒の心の教育に大いに寄与している次第です。

局長先生のご功績は数あれど、先生の歴史観こそ学院にとって何事にも代えがたい後世に語り継ぐべき財産と申し上げても過言ではありません。

元甲子園中学校・高等学校校長

西川 淳

音楽会

十二月十四日

満三歳児は初めての音楽会です。

手作りのマラカスをもち、ピアノに合わせて音を鳴らしました。年少組はカステネット、鈴、タンブリンをそれぞれのリズムで順番に鳴らしたりして合奏しました。



年中・年長組はクラスごとの発表です。年中組は、リズム打ちをする打楽器だけでなく、木琴や鉄琴などのメロディーを叩く鍵盤打楽器を取り入れた合奏です。音階を思い出しながら、一生懸命頑張りました。

ながら、一生懸命頑張りました。年長組は和太鼓演奏です。子どもたちは真剣な表情で和太鼓を打っていました。リズムや掛け声など、どれをとつてもさすがが年長組と思う演奏でした。

また、楽器や和太鼓演奏の後は歌も歌いました。満三歳児や年少組は歌に合わせた可愛らしい振りをつけ、年中組は友だちと声を合わせながら、年長組は歌詞の意味を理解し、思いを込めて歌いました。子どもたちは緊張しながらも持てる力を出し切り、発表後は晴れ晴れとした表情を浮かべていました。

お正月遊び

(こま遊び)

新年を迎え、幼稚園では昔ながらの正月遊びを楽しみました。年少組は手回しこま、年中組は缶こま、年長組は鉄



芯こまをサンタさんからプレゼントしてもらったものです。年少は初めて手にしたこまをうまく回すことが難しい姿もありましたが、心棒を両手でしっかりと挟み何度も挑戦す

にしていきたいと思ひます。

ると、少しずつ回るようになりました。長く回せるようになると飛び上がった喜んでいる姿も。年中は缶こまを、年長は鉄芯こまを回せるようになると、次は競い合つて遊ぶようになりました。保育室のあちらこちらでこまを通して、友だちとかかわり合う姿がみられていました。

お正月が過ぎて子どもたちはこま回しがしたいと話します。現代の遊びがテレビゲームなどに変わっていくなか、日本古来の伝統的な遊びを楽しむ姿を大事

栽培活動



十一月の中頃から、園庭の畑で、年長組は大根、年中組は小松菜・そら豆・うすいえんどう、年少組は二十日大根を植え、収穫を楽しみにお話をしています。

その年の気候によって発育状態が左右される野菜。種をまいた頃はそれほど寒くはなく、順調に芽が出て、葉っぱが大きくなり、少しずつ野菜が生長していくことを子どもたちは喜んでいました。しかし、十二月に入り一気に寒くなると、その寒さに野菜の生長もピタリと止まってしまい、「大きくなってないね・・・」という声が子どもたちから聞こえてきました。寒くなつてからは水やりの回数を減らしました



が、年少組の子どもたちは心配になった様子。「今日は水をたくさんあげない」との思いから、ジョウロに入れた水を一ヶ所に集中してあげて、土の上に水たまりを作ったり、もう一度水を汲みに行こうとしたりするかわいらしい姿も見られました。年少組は二十日大根を一月の中頃に収穫し、嬉しそうに持ち帰りました。

避難訓練

地震を想定して



いざという時に落ち着いて自分の命を守ることができるよう、洪水、火災、津波、地震と、それぞれの想定に合わせた避難訓練を年に四回行っています。

一月十七日には、地震の避難訓練を全園児で行いました。訓練の前には、子どもたちが安心して臨めるよう、年齢に合わせた絵本や紙芝居の読み聞かせをしました。

特に今年は阪神・淡路大震災から三十年の節目の年。教師から西宮でも家が壊れたり、水道やガス・電気などが使えなかったりした話を聞き「本当なの?」「トイレやお風呂はどうしたの?」「家が壊れたらどうなるの?」と信じられない様子でした。



子どもたちは多くの命が亡くなり不便な生活がしばらく続くという話に、いつもにも増して、真剣に耳を傾けていました。このような話を聞いたことから一番大切な命を守るために取るべき行動を一人ひとりが理解し、速やかに避難できました。最後には黙祷を捧げました。日頃当たり前に生活できていることへの感謝や有難さを考える良い機会となりました。

きつと素敵な年中さんになれますよ!楽しみですね!

◇凧作りをしている時の子どもと教師の会話です。「先生、凧が空のすーっと上まで飛んでいったらどうなる?」「えー宇宙までいつっちゃうかもね!」「そしたら宇宙人が乗ってきちゃうかも?!」「それからお友達が増えるね!自分が作っている凧が空高く飛んでいくことをイメージし、夢がふくらむ子どもたちです。

急い大人びたことを言ったり、思いがけない発言をしたりする子どもとの会話は面白いですね。

つぶやき Pick up

すくすく大きくなあれ

◇三学期の始業式。冬休み中の出来事を話したくてうずうずしている年少組の子どもたちと教師の会話です。

「先生、初詣に行ってきたんだよ。どんなお願いをしたかわかる?」「えー?どんなお願いをしたんだよ?」「あ、ね、年中組になれますようにってお願いしたの!」てつきり欲しいおもちゃを

お願いしたとおもいきや、進級することを願っていたようです。

修学旅行 沖縄へ

二月十日〜十三日

中学受験を終えた六年生が沖縄へ修学旅行に出かけました。初日は伊丹空港を出発し、沖縄に到着後、「ひめゆり平和祈念資料館」と「県営平和祈念公園」を訪れました。資料館では証言映像や当時の写真



や資料などを通して、戦争の悲慘さと平和の大切さを学びました。二日目は「もとぶ元氣村」で海洋体験プロ



グラムを体験し、海やサバ二等を体験し、海の生き物に触れるなど沖縄の美しい海を堪能しました。また、ドルフィンプログラムでイルカに触れ合う体験もしました。三日目には「美ら海水族館」で

巨大な水槽で海の生物を見て、その迫力に感動。その後、「おきなわワールド」を訪れ、鍾乳洞や紅型染めの制作体験を楽しみました。エイサーの演舞にも感動し、沖縄の文化に触れました。最終日は百里城正殿の復元工事が進んでいる首里城公園を訪れ、国際通りでお土産を購入。昼食ではシェフが目の前でステーキを焼くライブパフォーマンスを楽しみながら、美味しいご飯に舌鼓をうちました。三泊四日の旅はあっという間でしたが、仲間と過ごした貴重な時間は心に残る思い出となりました。

1/2 成人式
一月二十九日

四年生は保護者や教職員が見守る中、1/2成人式を行いました。十歳の門出を祝うこの行事では、将来についての決意と周りの人たちへの感謝の気持ちを児童一人ひとりが発表しました。

学習発表会Ⅱ(展示の部)
二月二十日

今年度最後の授業参観と合わせて、「学習発表会Ⅱ(展示発表の部)」を開催しました。



図工の授業で制作した絵画作品と立体作品を展示しました。また、五・六年生で、命をテーマに共同作品を作りました。頑張った作品を鑑賞した方々から褒められ、満足した表情を浮かべている子どもたちの姿がとても印象的でした。

クラブ作品展

習字クラブ展は、久米翠娥先生の指導を受けた子どもたちの日ごろのお稽古の成果を展示しました。生活クラブ展では、手作りの三角巾と、箸袋を展示しました。



私立中学入試報告

とりが発表し、続いて頑張っていることや得意なことを披露しました。発表を通して、子どもたちは自分のこれまでの思い出や生活を振り返り、加えてこれからの目標や夢について真剣に考えることができました。四月からは高学年としての活躍が期待されます。将来を見据えた大きな一歩を踏み出す機会となりました。



すばらしい先輩たち

坂康太郎
第六十四期生
近畿大学医学部
六回生

私は平成二十二年に甲子園学院小学校を卒業後、洛南高校附属中学・洛南高校・近畿大学医学部を経て、四月から兵庫県内の市中病院にて研修医として勤務し始める予定です。

甲子園学院小学校で過ごした六年間は濃厚で有意義な期間でした。その中でも特に印象に残っているのは、五・六年合同で行われる習熟度別の算数の授業です。算数が大好きだった当時の私は、五年生にも関わらず優秀な六年生と一緒に

に、校長先生によるハイレベルな授業・問題演習を受けることが出来ることに刺激を受け、最上位クラスに在籍し続けることを目標に勉学に励んだことは、今でも強烈な記憶として残っています。

そんな小学生だった私は、父が歯科医師であることもあり、医業に對し当時から関心を持っていました。中学・高校入学後もその時の志は変わらず、紆余曲折ありましたが医学部に入學し、今年ようやく六年間の医学部生活を終わらうとしています。

医学部生活は本当にあつという間でした。大学での講義・学内試験は勿論のこと、アルバイトなど課外での活動も充実していました。アルバイトでは、大手中学受験進

塾で算数を中心に学生講師をしていました。前述の習熟度別授業が非常に楽しく、自分も一度教壇に立つてみたいと思っていたのがきっかけです。このように、今でも甲子園学院小学校で過ごした時間が、自分という人間形成に繋がっているのだと改めて実感しています。

さて、将来的な進路として、私は外科系の医師を志しています。この先、様々な困難に直面するかもしれませんが、初志貫徹をモットーにこれからも日々努力を積み重ねていきたいと思っています。並びに、この文章を読んでいるかもしれない将来有望な後輩の皆さんにも、努力を重ね、夢を実現させてほしいと願っています。

令和6年度中学入試 合格・進学者数(男子13名,女子3名)

学校名	合格者数	進学者数	学校名	合格者数	進学者数
愛光	1	0	清風	2	0
追手門学院	4	2	高槻	2	0
大阪桐蔭	1	1	滝川	2	2
岡山	6	0	東大寺学園	1	0
岡山白陵	1	0	灘	1	1
開明	1	0	西大和学園	4	2
海陽	1	0	雲雀丘学園	1	0
甲南	4	2	報徳学園	1	1
甲陽学院	1	1	北嶺	4	0
親和	2	1	洛南高等学校附属	1	2
須磨学園	2	1	六甲学院	2	0

秋の校外学習

十月二十九日

中学生は大阪観光、高校一年生は京都の宇治、高校二年生は万博公園に行きました。

○中学生

大阪観光の内容は新阪急ホテルでの昼食ビュッフェ、大阪城とNHKの見学、最後にアクアライナー(水上バス)に乗るコースです。新阪急ホテルでは、色々な国の料理を味わうことができ、その美味しさに、時間ぎりぎりまで食べていた姿が印象的でした。

この校外学習に向けては、事前学習として大阪の歴史や大阪城、放送局の役割などについてしっかりと調べていたので、大阪城、NHKの見学では、見たいところや見るべきポイントが明確で見学しやすかったです。

○高校一年生

秋晴れの穏やかな天候に恵まれ、高校一年生は京都市宇治市周辺にて校外学習を行いました。まず平等院鳳凰堂を拝観しました。約千年の歴史を持ち、世界遺産にも登録されている貴重な建造物を前に、生徒たちは目を輝かせながら写真を撮ったり、紅葉に彩られた庭園を回っていました。



拝観後は各班に分かれ自由行動に。各班は事前に計画表を作成しており、それを見ながら平等院表参道を探索しました。生徒たちは、思い思いに食べ歩きを楽しんだり、両手いっぱいにお土産を持って行動したりしていました。感想では「世界遺産の平等院を初めて目の前で見て感動した」、「抹茶は苦手だと思っていたけど、今日の抹茶は美味しかった」という声があり、充実した校外学習となりました。

○高校二年生
風が冷たく感じられましたが、天候には恵まれた日となりました。最初は全員で博物館・水族館のニフレルに入場しました。ニフレルは水族館と動物園、美術館を統合した施設であり、「感性に触れる」をコンセプトにしています。間近で動物や魚たちを直感的に感じられることが特徴です。ハワイトタイガーを下からのぞいたり、ペンギンの餌やりを隣で見学したりと、生徒たちはここでしかできない体験をすることができました。そのあとは、各班ごとに事前に決めたコースをまわり、万博記念公園周辺を散策しました。



公園内では、普段正面からしか見ることのない太陽の塔を裏側から見てみたり、当日開催されていたラーメンフェスティバルの会場に行ってみたりと、それぞれの班が楽しみながら見学しました。生徒たちからは「動物たちの生触れに触れることができた」、「あまり話すことのなかったクラスのメンバーと仲良くなることができた」といった感想が聞かれ、良い思い出となったようです。

生徒会発足

十二月二十四日に生徒会の信任投票が行われ、生徒会が発足しました。

生徒会役員候補は高校二年生と一年生から各三名、中学生から二名、計八名が推薦され、この八名に対し、各学年の学級委員長が信任投票を行いました。信任投票の結果、全員が生徒会役員に信任されました。

生徒会の本格的な活動が始まるのは、四月にある対面式、部活動紹介からですが、生徒会会長の前田夏葵さん(高二)と副会長の白川茉莉奈さん(高二)、越智遙さん(高二)の三名に、これから

の意気込みを聞きました。

会長「前会長は学校行事に対してすごく熱心でみんなが楽しめるように司会、運営をしていました。私も前会長に負けたくないくらい盛り上げますので応援よろしくお願いします。」



副会長「二人「楽しく安心して過ごせるような学校を目指します。特に行事では、全員が笑顔になり、盛り上がりがあるような司会を意識します。生徒会一同協力していきますので、一緒に楽しい学校生活を作りましょう。」

生徒会には行事の運営、司会などの進行役や、準備・広報など様々な仕事があります。意気込み通りの盛り上がりを目指しています。

回は主人公のピーターパンが子どもではなく、おじさんという斬新な設定でした。演劇の後は、舞台監督から舞台の製作話などを聞き、どのように舞台が作られているのかわかることができました。

わかりやすく、馴染みのあるストーリーだったので生徒も楽しく鑑賞することができた様子でした。



わくわくフェスティバル

十二月六日に中学生はピッコロシアターに於いて、わくわくフェスティバルを鑑賞しました。演目は「さっさと行ってよ、ピーターパン」です。ピーターパンは有名な物語として広く知られていますが、今

令和六年度 学内成人式

一月十日、学内成人式が開催されました。

第一部の記念式典では、早坂三郎学長から式辞に続いて、II回生の代表学生が「誓いの言葉」を述べました。成人を迎えた決意が込められた内容で学生たちは身を引き締め、熱心に傾聴していました。続いて学院からの記念品贈呈が行われました。



第二部は会場を多目的演習室に移し「キャリアデザイン演習」履修の生活環境学科I回生の企画・会場設営・運営によりサービススマナを学習した学生が進行するティーパーティーが催されました。



卒業研究 授業成果発表会

一月三十一日、令和六年度卒業研究・授業成果発表会が行われました。この日に向けて、指導教員とともに積み重ねてきた研究等の発表です。本年度の卒業研究は、論文発表が二発表、制作発表が一発表、介護ケーススタディ二発表の計五つでした。

論文部門では、漫画で描かれている昭和三十年代の新しい暮らしに着目したり、オムライスの歴史を調べ実際に作ってみたりといった多岐にわたる内容でした。制作部門では、乳幼児期の手作り玩具に着目し、オリジナル玩具



の発表と作品展示が行われました。介護ケーススタディでは、認知症高齢者との関わりや、高齢者とのコミュニケーションについての発表がありました。いずれもこれまでの集大成といえる素晴らしい発表で、会場との活発な質疑応答が行われました。授業成果では、I、II回生の授業制作（パネルシアターや生活を彩る創作物等）の展示、I回生による課題探求成果の発表が行われました。

インターンシップ

フアッショントレンドとして注目されているエレガントで女性らしい「バレエコア」のコンセプトに合ったスウィーツや飲み物、花のセッティング・装飾等、お祝いの心がこもった会場に入ったII回生の学生は笑顔で楽しいひと時を過ごしました。民法の一部を改正する法律が令和四年四月一日から施行され、成年年齢が二〇歳から一八歳に変わりましたが、本学では引き続き「二〇歳」を人生の節目としてお祝いします。

二月から三月にかけて、「インターンシップ」履修生が職業体験実習に行きました。各学科での学びを活かせるような仕事であるのか、就きたい職種はどのような仕事内容なのか等を知るとい自分なりの目的を学生自身が持つて、有馬温泉の老舗旅館やスポーツ施設、薬局等での職業体験をしました。今後、学生の積極的な就職活動に繋がることを願っています。

グローバルスタディII 課題探求成果発表会

一月三十一日、I回生による標記の発表会が行われました。自らの興味・関心のある課題を探究した成果の発表とあつて、フールドロス削減への取り組みや、観光や二大コンビニエンスストアの比較といった社会現象をはじめ、ネイルやヘアカラーの歴史や変遷について、あるいは、なぜプロ野球は人気があるのか、長年国民に愛されているキャラクターの秘密について、さらには、韓国ブームの多面的分析や野菜や花について等、本当に多岐にわたるテーマに取り組んでいました。学生からも積極的な質疑があり、盛会の内に幕を閉じました。

おせち料理を 楽しむ会

十二月十六日、生活環境学科II回生全員で、お雑煮や海老の黄金焼き、伊達巻、ごまめ、栗きんとん、紅白なます等、おせち料理を作る体験をしました。その後、介護福祉フィールドの学生は短大教職員を招いて恒例の「おせち料理を楽しむ会」を催しました。おせち料理に加え、部屋の装飾やテーブルコーディネート、レクリエーションゲームのカード等も手作りし、



宿泊実習

十月から十一月にかけて、I回生が「生活文化演習」の授業に含まれる宿泊実習を生活実習ハウスで行いました。新型感染症等により中止をしていましたが、五年振りに施設の機械や道具類の点検、掃除から始めました。実習では三班に分かれて、月曜日から木曜日まで、晩ご飯から朝ご飯、学校に持参するお弁当を作るための食材の購入から料理・盛り付けまですべてを担当、洗濯や掃除等も協力して行いました。実習を終えた学生は「はじめは不安でしたが、友人との生活を楽しみ、日頃の家事の大変さを知り、家族への感謝の気持ちでいっぱいです」という感想を述べていました。



心がかもった温かさ一足早いお正月気分を味わいました。介護施設においても、ご利用者の心身が活性化され、一人ひとりの生活がより豊かなものとなるように、暦や季節を感じる行事は大切な取り組みです。当日までの様々な準備も含め、この行事からの学びもまた、卒業後の働きへと繋がっていくことを願います。

食育実践コース

@餅つき大会

一月七日に食育実践コースを履修している栄養学科の学生が、大阪市住之江区にある放課後等デイサービスで行われた『餅つき大会』に参加しました。食育実践コースでは、食環境にサポートが必要な子どもがいる場所へ行き、食支援が必要な子どもと接することで、食育に対する学びを深めています。今回の『餅つき大会』の目的は、「日本の食文化」を子どもたちに



「よいしょ」という掛け声で、息を合わせ、五升の餅をつきました。味付けは、砂糖醤油・磯辺まき・おろしポーン酢・きな粉・あんこの五種類があり、自分自身の好みの味付けを選び、楽しみました。施設の先生からは、「子どもたちの食支援でどのようなことに困難さを感じているか」などをご教授いただきました。管理栄養士が行う食支援の幅の広さを、実践を通して学ぶことができました。

伝え、かつ、安全にお餅を食べさせていただくというこでした。お餅をつく意味を伝えながら

産学官連携 『宝交早生苜プロジェクト』

「宝交早生苜プロジェクト」は、令和五年度に宝塚大会議で、宝塚市、(株)H2Oリテイリング、(株)地球ラボとの連携プロジェクトとして立ち上がりました。宝塚大会議は、宝塚市の包括連携先が一堂に会して、それぞれが持つノウハウや知見などを生かし、SDGs達成に向けた取組や、新たな価値を創り出すことを目的とした会議です。宝塚市発祥の「宝交早生苜」を、環境に配慮



した堆肥(家庭の生ごみをコンポストに入れて堆肥化した土)を利用し、食創造学科松岡大介准教授の指導のもと、十一月二十八日に宝塚市立光明小学校三年生と栄養学科の学生と一緒に、大学の菜園実習場に植える環境学習を行い、ソリオ宝塚のテラスのプランターにも市民の方々と植えました。菜園実習場では、二、三月に追肥やマルチ張りなど、次の収穫に向けて準備をしました。そして五月には菜園実習場で植えた宝交早生苜を、次の小学三年生が収穫しにきます。上級生が下級生

へと繋ぐように、宝交早生苜が再度宝塚市にある甲子園大学から広がり、多くの人々と繋がっていくことが期待されています。

心理学部 卒業研究審査

二月六日に心理学部の卒業研究審査が行われました。卒業研究は四回生全員が担当教員の指導のもとで一年かけて取り組みます。これは四年間の学びの集大成であり、卒業研究審査はその総仕上げとなります。審査では、学生たちが自身の卒業研究について発表し、会場からの質問に真剣に答えていました。



卒業研究では学生たちはそれぞれの興味関心にしたがってテーマを設定します。心理学と言ってもその範囲は非常に広く、臨床心理学、スポーツ心理学、認知心理学、犯罪心理学、社会心理学など多岐に渡っており、学生たちも様々なテーマで発表していました。テーマの一例を挙げますと、「非行・犯罪からの離脱における「回復の脚本」」「デルブーフ錯視に形が与える影響」「ネイルカラーの社会的印象」等がありました。

へと繋ぐように、宝交早生苜が再度宝塚市にある甲子園大学から広がり、多くの人々と繋がっていくことが期待されています。

小学校で「和食とだし」

パネル発表

一月二十八日に地域協働論を履修している学生が、「和食とだし」について宝塚市立丸橋小学校で全校児童に向けてパネル発表を行いました。この地域協働論では宝塚市のイベントに参加したり、地域の小中学校と連携したりしながら地域との協働について学びます。パネル発表は給食の時間中に全校生徒に放送され、小学生たちは熱心に聞き入っていました。また学生たちは久しぶりに作り立ての学校給食を美味しく食べていました。今回学生たちが作成し、発表したパネルは、宝塚市内の四つの小中学校に掲示されています。



甲子園大学では現在、プラチナ世代(五十歳以上の世代)の学生獲得に力を入れています。これは大学で学びたくても様々な事情で学べなかった人や、学び直しをしたい人に向けて学修の機会を提供するものです。プラチナ世代の入学によって多様性が生まれ、若い学生も良い影響を受けています。

プラチナ世代の学びを応援!

現在、プラチナ世代は三名の方が在籍しています。大学での学びについて尋ねてみると「大学で得た知識を活用し、食に関わる仕事で感じた問題を解決したい」、「心理学は社会人が学ぶのに最も適していると感じる」、「心理学を学ぶ上で人生経験が役に立つのを実感している」など、深い学びをされていることがうかがえます。

図書館POP大賞表彰式

十二月十九日に大学図書館で「第七回図書館POP大賞」の表彰式を行いました。図書館POP大賞とは、学生が好きな本をPOP広告(店舗の売り場などに設置されている広告)で表現するイベントで、学生の読書推進と図書館利用の促進を目的に毎年開催しています。今年も優秀な作品の応募が多く、最優秀賞、優秀賞、特別賞に加え、奨励賞を設け、受賞者に賞状と副賞が贈られました。最優秀賞には、古田愛恵さん(フードデザイン学科四回生)の「かがみの孤城」が選ばれました。受賞した各作品には、学生の創意工夫と優れたデザイン性がみられました。



現在、プラチナ世代は三名の方が在籍しています。大学での学びについて尋ねてみると「大学で得た知識を活用し、食に関わる仕事で感じた問題を解決したい」、「心理学は社会人が学ぶのに最も適していると感じる」、「心理学を学ぶ上で人生経験が役に立つのを実感している」など、深い学びをされていることがうかがえます。

甲子園短期大学の学生募集停止について

この度、学校法人甲子園学院は、甲子園短期大学の学生募集を令和八年度以降、停止することを令和七年一月二十二日開催の理事会において決定いたしました。在学生、卒業生、保護者、そして令和七年度入学生の皆様、併せて本学の教育にご支援とご協力いただいております高等学校、地域関係者の皆様にご報告申し上げますとともに、諸般の事情をご賢察いただき何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

甲子園短期大学は、昭和三十九年四月に家政科を以て開学し、その後、幼児教育科の開設をはじめとして六十年の歩みを続けてまいりました。「学校法人甲子園学院中期事業計画」に基づき、令和三年には「甲子園短期大学中期教育改善計画」を策定・公表して定員変更と教育課程の改革を行い、その後も毎年カリキュラム改編に努め、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシールベル）」の認定を令和五年八月に受けることが出来ました。また、令和五年度には一般財団法人大学・短期大学基準協会による短期大学認証評価を受審し、これら本学の取組が評価され適格の認証を受けたところです。

輩出の卒業生は、社会の礎となつて地域の企業、幼稚園、保育園認定こども園、介護施設をはじめ多方面で活躍しているところですが、しかしながら、近年の十八歳人口の減少、四年制大学志向などの社会的趨勢は短期大学には誠に厳しく、本学でも大幅な定員割れが続いております。全学を挙げてこれを克服すべく右記のような改善と改革に取り組んでまいりましたが、誠に残念ながら今回の結論に至った次第です。

令和七年度入学生および在学生の皆様には、卒業に至るまでの教育・研究活動の維持ならびに免許資格や進学・就職活動、学生生活全般等の指導と支援につきましては、引き続き総力を挙げて取り組んでまいります。また、卒業後の各種証明書の発行をはじめとする諸対応につきましても、支障のない体制を整えてまいりますので、重ねてご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和七年一月二十九日

甲子園学院長 久米 知子
甲子園短期大学学長 早坂 三郎

※本件に関するお問い合わせ先
甲子園短期大学 庶務課 電話：079816513300

学院生の活躍

(○数字は開催月)

中学校バレーボール部

①令和六年度西宮市中学校バレーボール選抜大会 **優勝**

①令和六年度阪神中学校バレーボール選抜大会 **3位**

中学校剣道部

①兵庫県中学校剣道新人大会 **優勝**

②個人 **優勝** 鎌田 心桜(中二)

◇女子団体の部において、三月に行われる近畿中学校剣道選抜優勝大会への出場が決定。



私学総連合美術展

一月三十一日から二月二日まで、兵庫県民会館アートギャラリーで兵庫県私学総連合会主催の第六十三回私学総連合美術展に、本学院の各学校園から出品しました。

幼稚園 年少組 東條 莉子
年中組 中山 圭人
年少組 八木田 啓汰

校祖記念賞受賞

今年度の受賞者は、短期大学Ⅱ回生の武知那愛さんが選ばれました。表彰は短期大学の卒業式で行い、学院長から表彰状と副賞が授与されます。

校祖記念賞は、昭和六十二年の校祖生誕百年に制定されました。本学院の大学、短期大学、高校生のうち、学業成績が優秀で人格円満、品行方正で健康な人物が選ばれます。



短期大学 生活環境学科Ⅱ 回生 武知 那愛 さん

小学校 一年 Fzakas Benedek William

二年	時永 和
三年	内田 詞葉
四年	星野 結衣
五年	安木 美咲紀
六年	上田 陽琉
三年	川岸 優夏
三年	菱谷 芽生
三年	栗田 此春
三年	山内 穂佳
三年	奥田 和香
三年	右田 琴子
三年	戸井 茜
三年	室 実花子

園の輪

そのわ No.189

令和7年3月17日発行

学校法人 甲子園学院
〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号
TEL. 0798(67)2100
FAX. 0798(67)5488
http://www.koshien.ac.jp/honbu/

あとかぎ

◆甲子園学院の発展に前学院長とともに永年尽力されてきた久米多香子特別顧問に深い感謝と、哀悼の意を捧げます。

追悼式記念講演講師プロフィール 橋本 周現(はしもとしゅうげん) 金戒光明寺執事長

昭和31(1956)年 愛知県名古屋生まれ。
昭和49(1974)年 佛教大学文学部史学科東洋史専攻。
昭和59(1984)3月 京都市左京区黒谷町の西雲院にて出家得度。
昭和61(1986)3月 浄土宗僧侶となると同時に西雲院副住職拝命。
平成17(2005)年 浄土宗大本山金戒光明寺執事拝命。
平成23(2011)年 西雲院住職拝命。
令和4(2022)年 金戒光明寺執事長拝命。